

東久留米市立中央中学校 第2学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	漢字力、語彙力の個人差が大きい。そのため、書く文章の内容にも個人差が出る。	語彙力は、辞書をこまめに引くことや読書を通し活用できる言葉の力を身に付けさせる。漢字は自分なりの得点目標をもって取り組めるようにする。	◎漢字は毎週小テストを実施し、習熟度を把握する。半数が8割以上、苦手な生徒も5割以上を目指す。読書、辞書を引く時間を設け、習慣付ける。
	積極的に考え、発言しようとする生徒が多い。多くの生徒が目的やテーマに沿った発言や自分の考えの根拠ができるようにする。	スピーチや討論など様々な場を設定して話すことに取り組み、その場にふさわしい話を適切な音量と速さでできるようにする。	◎互いに話（スピーチ、討論等）を聞き、助言や評価をし合う。内容や構成、話す時間や声の大きさ、全員がそれぞれB評価以上を目指す。
社会	基礎的な知識はついているが、自ら課題を設定し考えをまとめて表現することが苦手な生徒が多い。	タブレット端末を活用し、各生徒の意見を全体に共有することで、思考・判断・表現力の向上を図る。	◎小テストや小レポートでおおむね評価B以上を達成することを目指す。
	タブレット端末を活用し、自己の意見を出すだけでなく、班で話し合い1つの意見を出す活動を増やす。	自分の考えたことをまとめ文章にする活動をさらに増やす。この活動が苦手な生徒のために、得意な生徒と一緒に活動させる。	◎定期考査の思考判断表現の問題で正答率50%を目指す。
数学	正負の数の計算や1次方程式など既習事項が定着していないため知識がない生徒がいる。	夏休み明けテストや日頃の小テスト等で、復習する機会を増やし、定着を図る。	◎小テストにおいて、学年全体の正答率が50%を超えることを目指す。
	定期テストにおいて、記述する問題の正答率が低い。	レポートや小テストにおいて記述問題も取り入れる。	◎定期考査で、記述問題の正答率を40%を超えることを目指す。
理科	指示されたことは、よくに取り組むが、知識から推測して考える力がやや足りない。	なるべく図や写真などでイメージを具体化し、順を追って考えられるようにしていく。	◎定期テストで5割以上の生徒が5割以上の正答率を達成する。
音楽	前向きに音楽活動に取り組む生徒が多い。楽譜の読み取りをさらに向上させる。	音楽記号のワークシート等を準備し、継続的に知識を向上できる学習時間を設定する。	◎音楽記号等をワークシートで学習し、定期考査に出題する。該当箇所の問題正答率は7割程度を目指す。
	鑑賞教材について、自分の言葉で記述する力をさらに培い、自己表現力につなげていく。	視聴覚機器を活用して分かりやすく示し、言葉で表現する機会を増やす。また、良い表現については教師から提示し、共有する。	◎ワークシートの記述課題で、7割以上の生徒がおおむね満足できるB評価以上を達成できるようにする。
美術	積極的に授業、制作に取り組む生徒が多い。制作に見通しをもたせ、技術の向上に努めていく。	参考作品の提案を行うことと、簡単な練習課題を設ける。	◎振り返りの中で自分自身の課題を見付け、改善策を書ける生徒を6割以上にする。

保健体育	運動が得意な生徒と不得意な生徒の差が激しいが素直に取り組もうとする生徒が多い。	ポイントを明確にし、自分たちで教え合いを行うなどの活動を通して積極的に行えるようにする。	○学習カード「積極的に取り組んだ」の欄に7割以上の生徒の評価を目指す。
	基礎体力は低い、トレーニング等を取り入れ、いろいろな競技に体力を生かしていく。	毎時間基礎トレーニングを取り入れ、練習方法も工夫する。	○競技ごとに評価テストの種類を増やし、多面的な角度から評価を行い、8割以上の生徒が目標を達成できるようにする。
技術	積極的に授業、制作に取り組む生徒が多いが、技能面に課題がある為、正しい道具の使い方の習得や更なる技能の向上に努める。	やり方や方法をその都度、必要箇所にフォーカスし実演して見せる。また、クラスの中でミニリーダーを活用し、教え合いの機会を増やす。	○正しく技能の習得をし、振り返りの中で自身の課題発見、そして改善策を書ける生徒を7割以上にする。
家庭	授業に対して興味をもち、取り組んでいるが、集中して取り組めない生徒がいる。	教科書や資料集、DVDなどを使い生徒がイメージして日々の生活と結びつけられるようにする。	◎繰り返し学習しながら知識の定着を図るとともにプリントの記述内容、振り返りカード、製作物の取り組みから確認する。(8割の生徒を目指す)
外国語	英単語、熟語や語順の習得が不十分な生徒がいる。	基本的な英文習得のため、1年生の教科書から復習しディクテーションテストを行っていく。	○ディクテーションテストで7割以上の生徒が50%以上を取ることを目指す。
	ペアによる会話練習によく取り組んでいるが、様々な相手と少しずつ長く話せるようにしていく。	会話練習の際、会話を続ける方法やプラスの質問のしかたを少しずつ練習させていく。	○パフォーマンステストで、7割以上の生徒が50%以上を取ることを目指す。
徳 特別の 教科 道	自分の意見をもっている(ワークシートに記述はしている)が、発表が苦手な生徒が見られる。	グループ活動やICTを活用しての共有を適宜行う。	○全生徒が話合いのルールを守り、多くの生徒がすすんで発表できるような雰囲気と環境を整える。
総合的な学習の時間	指示がないと自ら課題の設定や活動への自主的な取り組みが困難である生徒が多い。	テーマごとに2回以上の課題設定を行うようにする。イメージしやすい例を提示するなどの工夫をし、自分で課題設定を行わせる。またわかりやすい説明を行う。	○教員の意図する段階に5割以上の生徒が達しているかワークシートで確認する。